

# Weekly コラム

令和 4 年 8 月 16 日

〒541-0055 大阪府中央区船場中央 2-1

船場センタービル 4 号館 4 階

船場経済倶楽部

Tel 06-6261-8000

(NPO 法人 SKC 企業振興連盟協議会) Fax 06-6261-6539

人の輪・衆智・繁栄

## 活動方針



当団体は、異なる業種の経営者が相集い、力を合わせ、自らの研鑽と親睦を通じて、斬新な経営感覚と新たな販売促進を創造して、メンバー同士でより健全な事業所とその事業所のイメージアップを図り、地域社会に貢献できる事業所となることを目的とする。

## ロシアとの決別の先は

今年5月、北欧のフィンランドとスウェーデンがNATOへの加盟申請を正式に発表しました。ロシアとの約1300キロにわたり国境を接するフィンランドは、歴史的な経緯からこれまでNATOに加盟せず軍事的に中立の立場をとってきました。NATOとロシアの緩衝役となっていた両国の今回の決定は、世界の安全保障において大きな転換点を迎えたことを意味します。

ロシアのウクライナ侵攻が長期化し、各国は経済制裁を強化しています。特に欧州はロシア産石炭の輸入禁止で合意し、石油も年内に輸入を禁止する方針を示しました。更に今後は天然ガスの輸入も禁止し、ロシアと完全に決別する姿勢を示しています。しかし、エネルギーの移行はそう簡単ではないのが現状です。

欧州はこの20年、ロシアへのエネルギー依存を高めてきました。巨大な市場を持つ欧州と、安価なエネルギーを地続きで安定的に供給できるロシアの利害は一致し、経済的な結びつきが年々強化されていきました。結果、2021年のEU全体のロシア依存度は、石油で27%、天然ガスで45%となっています。また、欧州をまとめていたドイツのメルケル元首相とプーチン大統領の政治的な親交が深く、欧州とロシアは良好な関係が続いていました。ロシアの暴走を止めることができたのは、メルケル元首相しかいないという声があるほど、政治的なバランスが保たれていました。

欧州にとって、これまでロシアに依存しすぎていたエネルギーを他国から確保することは待ったなしです。代替調達先として、中東・北アフリカ諸国への交渉を進めていますが、交渉は難航しているようです。例えば、カタールは液化天然ガス(LNG)の世界有数の生産国であり、生産能力を40%増強するため約290億ドルのプロジェクトを進めています。カタールはエネルギー協力に向けて前向きな姿勢を示していますが、条件面における隔りがあるようです。カタールは10年以上の長期契約を求めている一方、英国やドイツは今後の脱炭素目標を考え、5年契約を求めています。またカタール産のLNGは海上輸送が必要となるため、パイプラインで運ばれるロシア産に比べて時間がかかり割高になります。アルジェリアやリビアなどは政治的に不安定で、エネルギーを安定的に供給できるか不透明な状況です。

世界はロシアを排除する、孤立させる方向に進んでおり、安全保障面やエネルギーの確保がますます困難になっています。ロシアとの決別には、こういった痛みを伴うことも理解する必要があります。



記事の内容に関するお問い合わせは事務局までご連絡ください。

ウィークリーはメールでの配信も行っております。お手数ですが、「メール希望」・「配信停止希望」と件名にご入力の上、

skc-soudan@skc.ne.jp まで空メールをご送信ください。また、FAX ご不要の際は、その旨をお電話にてお申しつけください。